

【大学教育におけるFD導入】 未来から考えるきっかけ作り

金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 木村 岳裕

本日の内容

1. 金沢大学で実施した背景
2. 実施する際に目指したこと
3. 授業構成
4. プレゼント・デザイン
5. パスト・デザイン
6. フューチャー・デザイン
7. 学生の感想
8. まとめ



Ⅰ. 金沢大学で実施した背景

- ・フューチャー・デザインを知ったきっかけ

2014年 高知工科大学に研究員として着任し、西條先生からご紹介いただいたこと。

- ・金沢大学で実施することを決めたきっかけ

2024年2月 教職員研修会で九州大学の教育導入を岡本剛先生からご講演に感銘をうけたため。

- ・共通教育の自由履修単位科目として開講

卒業要件：初年次教育科目(4単位)＋教養科目(15単位)＋英語(8単位)＋…＋自由履修科目(2単位)

- ・自由履修科目のメリット

－開講計画を立てる際に他の科目との調整が不要。

－専門科目ではないので全学生が履修可能。

－必修科目ではないので単位取得のプレッシャーが少なく、自由に学べる。

2. 実施する際に目指したこと

開講状況

- ・ 2025年第4Qに1単位分の自由履修科目として開講。
- ・ 履修学生の属性：22名中20名が1年生（文系8名、理系7名、融合系7名）。

ガイダンスで伝えたこと

- ・ 様々なデザインを通じて、物事を取り決める際の視野を広げて欲しい。
- ・ 未来を予測することではなく、未来世代の立場から現在の選択肢を捉え直す力を身につける。
- ・ 正解は無いので、肩肘張らずに様々な所属の学生同士で話を広げて欲しい。
- ・ 自分自身の未来を想像して、自分へのメッセージを送ることを意識して欲しい。

3. 授業構成

第1回：ガイダンス・グループ分け

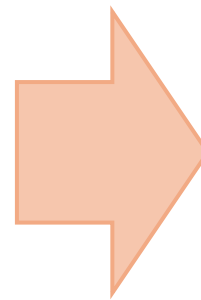
- ・ガイダンス後に5人グループを作成
- ・グループ内で自己紹介（興味、将来）

第2・3回：プレゼント・デザインの準備と発表

第4・5回：パスト・デザインの準備と発表

第6・7回：フューチャー・デザインの準備と発表

第8回：まとめ（20年後の自分からのメッセージを考える）



扱うテーマは各グループで決める。
現在の思考を確認した後、
過去を通して時間的な因果関係を学び、
その経験を未来視点への移行につなげる
段階的な設計とした。

※発表では10分のプレゼンと5分の質疑を設けた

4. 20年後を想定したプレゼント・デザイン

グループごとのテーマ

A：動物の殺処分について

B：AIと大学の関わり方

C：オーバーツーリズムについて

D：バリアフリーについて

運営上の感想

学生からの感想

- ・現在の課題を現実的・多面的に理解することはできた。
- ・既存制度から離れられていなかった。
- ・独自性の高い提案が難しかった。
- ・具体的な工程について考えられなかった。
- ・未来世代への視点移動はできていなかった。

- ・一部のメンバーが興味を持つテーマになり、事前知識の無いメンバーは消極的になってしまった。
- ・問題解決に技術・法律・予算・人材等が必要になることを意識でき、第三者的な視野が広がった。
- ・問題に対する現在の取り組みの延長という印象だったが、改善・普及にも視点を向けられた。
- ・FDで未来人になるきる練習かつ第三者目線を意識するためにロールプレイを実施しても良かった。

5. 40-50年前を想定したパスト・デザイン

グループごとのテーマ

A：労働者派遣法

B：金沢大学のキャンパス移転

C：環境問題・地球温暖化

D：男女雇用機会均等法

運営上の感想

学生からの感想

- ・過去の失敗としてでなく、制度が作られた当時の社会的・経済的背景を考えられた。
- ・当時の価値観や何を守ろうとしたのか考えられた。
- ・優先された/後回しにされた人が生じたことを確認できた。
- ・制度の変更や代替案について検討することができた。

- ・前回のプレゼント・デザインの実施によって視野の広がりが感じられた。
- ・法律制定から複数回の改正まで扱わせてしまったので、意思決定時点を1つに絞らせてもよかった。
- ・現在の技術や常識を過去に持ち込もうとする印象があった。
- ・未来世代が現在の意思決定者（私たち）に「ここまで考えて欲しかった」とならないようにするためには、何を考えればいいだろうか？との問いかけができた。

6. 50年後からのフューチャー・デザイン

テーマ：50年後の金沢大学での大学教育

これからすること

1. グループ内での役割を確認（変更しなくてもOK）

2. タイムマシンに乗って、2076年の世界を見に行こう。

3. 井戸端会議その1：「50年後の大学教育@金沢大学」を話し合おう。

・どんな大学になっているの？大学生はどのように学び、何をしているの？

4. タイムマシンに乗って、2026年の世界に戻ろう。

5. 井戸端会議その2：50年後の金沢大学から今の金沢大学に助言を届けよう。

・50年後の大学に現在のまま残るもの、消えるもの、新しく生まれるものもあるでしょう。もし50年後の大学から今の大学に一つだけ助言が届くとしたら、何を変えるべきだと言うと思いますか？

6. 50年後からのフューチャー・デザイン

テーマ：50年後の金沢大学での大学教育

ここは2076年の世界です。

過去の制度や制約はいったん外して大学教育や金沢大学について話し合ってみよう。

1. 教育の在り方（学ぶとは何か？）
 - ・学位は必要？年齢や所属は固定されているか？
2. 研究の役割（何のために研究するのか？）
 - ・研究＝大学という前提は必要か？
3. 大学と社会の関係（学生のための閉じた or 市民などに開かれた場か？）
 - ・地域社会との関係、企業との境界、市民が大学をどのように使うか？

発想を広げて

4. 入学・卒業の概念は？
5. 教員・学生の関係性は？
6. 課外活動・学生生活の意味は？
7. キャンパスは必要か？

7. 学生の感想

②将来残るもの、消えるもの、新しく生まれるもの

残るもの	消えるもの	新しく生まれるもの
• 広大な土地 • 対面授業 • 教授	• 元来の豊かな自然 • 大学生だけの空間 • バスの遅延 • バス自体 • 冬の朝の遅刻 • 受動的に受ける授業 • 偏差値	• キャンパス • 新しい交通手段 • 大きな商業施設 • 地域とのつながり • 多様な交流 • AI教授 • バーチャル受講 • 強いセキュリティ

③未来からの助言

いろいろな人と関われる大学になろう

年齢や性別、国籍を問わない学びの推進とだれでもアクセスできる環境を目指そう

交通機関と周囲の施設の整備に力を入れよう
金沢大学付近の利便性の向上

時代の変化に敏感になろう

- ・ 単なる将来予測やプレゼント・デザインになってしまった（FDを理解した上での感想と解釈）。
- ・ 2076年の学生を意識できたが、現在の問題抱えたままの将来予測だった。
- ・ 将来目線で大学の魅力を考えることができた。
- ・ 多世代・多国籍の学習や現在の大学の概念を変えることができた。
- ・ 発想する際に根拠を求めると現在の延長になり、根拠がないと現実味がなくなる難しさを感じた。

8. まとめ

実施しての感想

- ・ 自然環境、歴史や文化、地域とのつながりなど未来まで残したいものを具体化でき、FDが単なる問題解決方法ではなく、将来世代から感謝されるものは何か？を考えるきっかけになった。
また、現在の不便さ（デメリット）を将来の資源（メリット）として考える発想の転換があり、学生のマインドセットに影響する高い教育効果があることを実感した。

今後の課題

- ・ 設定をより具体的する。例：2076年の大学では多様な年齢・国籍の人が学ぶコミュニティになっている。ここから2026年を振り返ると、何を始めてもらえばよかっただろうか？
- ・ 未来人の様々な立場でのロールプレイを実施してみる。例：現在の提案により将来恩恵を受ける人、困る人、新たに生じる問題についてどのように対応するか？など。
- ・ 3種類のデザインを実施する際に扱うテーマをどうするか？
- ・ 金沢大学においてFDを広げるための手立てをどうするか？